

#### ・ 集中排除的な作用の役割

「資本家の労働は一般に彼の資本の大きさに、すなわち彼が資本家である程度に、反比例する。このような一方の労働条件と他方の生産者との分離こそは、資本の概念を形成するものであって、それは本源的蓄積(第一部第二四章)とともに始まり、次いで資本の蓄積と集積とにおいて恒常的な過程として現われ、そしてここで最後に少数の手中への既存の諸資本の集中と多数の人々からの資本の取上げ(今では収奪はこのように姿を変える)として現れるのである。このような過程は、もしも求心力と並んで対抗的な諸傾向が絶えず繰り返し集中排除的に作用しないならば、やがて資本主義的生産を破壊させてしまうであろう。」(大月版『資本論』④ P309B7-1)